

(6) 2017年(平成29年) 8月3日(木曜日)

去る4月下旬に日本に行く機会がありました。在米37年目に入り過去に何度も一時帰国をしていたものの、春に帰るのは初めてだったので、「日本の桜」を見るのがとても楽しみでした。

日本にいた頃は若さ故か何の興味もなかったのですが、日本からのニュースを見たり、当地の知り合いの桜体験談を聞くたびに「日本人として一度は桜をじっくり鑑賞してみたい」という思いをずっと持っていたのです。おかげさまで私の故郷である信州飯田でその願いが叶いました。満開を過ぎていたとはいえ、私の目には十分に美しく、風が吹いた時の桜吹雪は見事なものでした。「日本人の心」にやっと自分も触れることができ感動しました。

東京から田舎に向かうバス

の窓から山々の景色を見ながら、ふと私がアメリカに出会った原点は何だったのかと記憶をたどってみました。それが1964年の東京オリンピックであったことに気が付いたのです。

強烈な印象として残ったようです。表彰式での国旗掲揚を何度見たことか、星条旗も永遠なれのメロディーは暗記してしまっただけでした。全てが日本と対照的な文化に触れたことで、ある種が私の心の中

### 南加キリスト教会連合

## 在米37年目にして思う

マックス山口

私たちが小学校5年生の秋にアジアで初めて開かれたオリンピックで、戦後の日本の復興ぶりを象徴する大会でした。毎晩、テレビを夢中で見たものです。日本選手の活躍に心躍らせながらも、圧倒的なアメリカの強さが子供心に

に時かれたのだと思います。やがて成人後に機会が与えられ、憧れの地に到着した時の気持ちの高ぶりを昨日のよう思い出します。しかし、私がなぜこの国に来ることになったのかの本当の理由を知ったのは、それから20年余

の月日が経過した後のことでした。小さい頃、人間50歳ともなれば人生の何たるかを悟り、自然に平安に満ちた生活をしているのであらうと思っていたものです。ところが実際に自分がその年齢になってみて、現実には生きていくことに悶々とする毎日でした。

え、そのことに気づかせるための渡米だったのだと思います。よもや当地で洗礼を受けることになろうとは、想像すらしなかったことです。アメリカという国に現在暮らすことができ、同時に日本との関わりを保つことができていることが感謝です。実は高校卒業まで生活をした故郷の実家のすぐ近くに、キリスト教会があります。当時は一度も足を踏み入れたことがなかったのに、今では帰省のたび、同教会の礼拝に姉と共に出席できることが大きな喜びとなっています。ずいぶんと速まわりをしたものですが、私の求めていた何かの答えは、私が生まれるずっと前から身近に存在していたと知りました。

(オレンジコースト・フリーメソジスト教会)